

事例5 島根県美郷町（麻布大学）

獣医学系

地域課題と大学研究領域が合致 町×大学で長年の課題解決に取り組む！

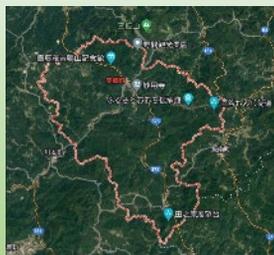
事例の概要

麻布大学美郷町フィールドワークセンターは、2021年に設立された新しい施設で、比較的小規模な研究拠点「フィールドワークセンター」として開設・機能しています。フィールドワークセンター設置に至る経緯としては、長年にわたり培われた大学教職員と町役場職員との交流・信頼を活かし、今回のセンター設置に至った事例となっています。

島根県 美郷町

基礎データ

- 人口：4,355人
- 面積：282.92km²
- ※美郷町HPより
- 都市特性
島根県の中央部に位置。観光・伝統芸能、農林業など様々な産業が盛んである。



キャンパス設置前の課題

- ①鳥獣被害の拡大に対する対策強化
- ②地域住民との協力体制の構築

麻布大学

基礎データ

- 設立年：1890年
- 本拠地：神奈川県相模原市
- 学生数：2,499名（2020年度）
- 学部：獣医学部・生命・環境科学部

キャンパス設置前の課題

- ①自然環境に特化したPBL (Project Based learning) の拠点探し
- ②動物と人の共生、環境と地域の研究拠点の検討
- ③地域住民との協力体制の構築

麻布大学 フィールドワークセンター

基礎データ

- 設置年度：2021年度
- 学生数：約20名
- キャンパス面積：530m²
- 設置学部：生命・環境科学部

設置にあたっての地方公共団体からの支援

設置前支援

- 町の休眠施設の改修とフィールドワークセンターとしての貸与

設置後支援

- 町内資源の大学研究への活用の協力

キャンパスの特徴

- 島根県中央に位置する美郷町は自然豊かな環境に囲まれた地で、生命科学系の研究に適した環境となっています。町では鳥獣被害、特にイノシシの被害が目立ち、獣医学を中心とする研究に役立つフィールドワークセンターは研究・実益の双方に最適なセンター立地となっています。

サテライトキャンパスの誘致・設置の沿革

年度	内容
1999	現フィールドワークセンター センター長が農水省研究員として被害対策研究を開始
2000	被害調査で麻布大学学生の卒業研究の開始
2003	麻布大学動物行動管理学研究室の学生・院生の滞在を住民が受け入れ開始
2012	現フィールドワークセンター センター長が麻布大学客員教授に就任
2019	美郷町と麻布大学の包括連携協定締結
2021	麻布大学フィールドワークセンター開設

キャンパス設置の効果と課題

美郷町ではフィールドワークセンター開設の20年以上前から麻布大学を中心とする研究者・教職員・学生の受け入れ等により協働してきた実績の積み重ねがありました。同センター設置により、定期的な学生の訪問が可能になるなど町と大学のさらなる連携強化に成功し、双方において対外的な広報に積極活用された結果、入学志願者や町来訪者増加へつながりました。



フィールドワークセンター 外観

キャンパス設置の効果

- 当該研究領域における研究活動の活性化
- 大学広報やプロモーション動画への活用
- 定期的な学生の来訪による地域の活性化

キャンパス設置後の課題

- キャンパスまでの交通アクセス

誘致のポイント

① 地域課題と大学の研究領域の高い親和性

- 美郷町はイノシシなどの鳥獣被害が町の取り組むべき課題である一方で、その対策として猪肉生産の活性化に取り組んできました。その課題と取り組みに対して、麻布大学の生命・環境科学部の研究領域がマッチしていることが誘致成功の大きなポイントの1つとなっています。



② 大学との包括協定の締結

- 本事例では、センター設置に先立って、麻布大学と美郷町が包括協定を締結しました。約20年近く麻布大学と美郷町は研究活動において協力関係にありましたが、2019年に協定を締結したことがフィールドワークセンター誘致を大きく加速させることにつながりました。



③ 町の施設の積極的活用と貸し出し

- 本事例では、町所有の施設を改修し、その施設を大学側に貸し出す形をとっています。町内の有効活用し切れていない施設や環境を大学のために貸し出すことで、大学側の初期費用の低減につながり、結果として誘致成功のポイントとなっています。

